

平成 27 年度 環境技術実証事業 自然地域トイレし尿処理技術分野

第 3 回技術実証検討会 [議事要旨]

日時	平成 27 年 10 月 28 日(水) 14:30～16:30
場所	田中田村町ビル・貸会議室 部屋番号 5 D (東京都港区新橋 2-12-15 田中田村町ビル)
出席者	<p>検討員</p> <p>伊与 亨 北里大学医療衛生学部 講師</p> <p>河村 清史 元 埼玉大学大学院理工学研究科 教授</p> <p>木村 茂雄 神奈川工科大学機械工学科 教授</p> <p>桜井 敏郎 (公社)神奈川県生活水保全協会 理事</p> <p>穂苅 康治 槍ヶ岳観光(株) 代表取締役</p> <p>平野 潤 静岡県くらし・環境部環境局 自然保護課 課長</p> <p>環境省</p> <p>野村 環 自然環境局 自然環境整備担当参事官室 参事官補佐</p> <p>柳澤 暁 自然環境局 自然環境整備担当参事官室 施設第一係長</p> <p>泉 光博 自然環境局 国立公園課 課長補佐</p> <p>栗林 重和 自然環境局 自然環境整備担当参事官室 施設専門官 事務局</p> <p>特定非営利活動法人 山の E C H O (上幸雄、平澤恵介)</p> <p>試料採取・分析機関</p> <p>濱中 俊輔 (公財)日本環境整備教育センター 調査・研究グループ 調査研究第 2 チーム 研究員</p> <p>高橋 悟 (公財)日本環境整備教育センター 浄化槽システム国際協力センター兼 調査・研究グループ 調査研究第 2 チーム</p> <p>岡崎 貴之 (一財)日本環境衛生センター 東日本支局 環境工学部 環境施設課 係長</p>
申請者	参加なし
傍聴者	2 社の希望があったが当日欠席
議事	<p>( 1 ) 実証試験の進捗状況 (利用者数、試料分析等) の確認 &lt; 非公開 &gt;</p> <p>( 2 ) 自然地域トイレし尿処理技術セミナーの検討</p> <p>( 3 ) 実証試験結果の有効活用および実証効果に関する検討</p>
配布資料	<p>資料 1 第 2 回技術実証検討会 議事要旨 (案) &lt; 非公開 &gt;</p> <p>資料 2 実証試験の実施状況</p> <p>資料 3 現地調査報告 (大成工業) &lt; 非公開 &gt;</p> <p>資料 4 現地調査報告 (ハイテックス) &lt; 非公開 &gt;</p> <p>資料 5 実証試験データ中間報告 (大成工業) &lt; 非公開 &gt;</p> <p>資料 5 -2 実証装置の利用者状況 (大成工業) &lt; 非公開 &gt;</p> <p>資料 6 実証試験データ中間報告 (ハイテックス) &lt; 非公開 &gt;</p> <p>資料 6 -2 実証装置の利用者状況 (ハイテックス) &lt; 非公開 &gt;</p> <p>資料 7 第 6 回 自然地域トイレし尿処理技術セミナー実施概要 (案)</p> <p>資料 8 実証試験結果の有効活用および実証効果に関する検討 (案)</p>
公開/非公開	議事 ( 2 ) ( 3 ) は非公開で行われた。

[議事要旨]

○議事1 <実証試験の進捗状況（利用者数、試料分析等）の確認 <非公開>>

- 自然地域し尿処理技術の進捗報告については、実証機関の山のECHOから報告した。

○議事2 <自然地域トイレし尿処理技術セミナーの検討>

[セミナープログラムについて]

- セミナー第2部の技術相談会は、当日参加の検討員全員が参加した方がよい。(検討員)
- 環境省は過去のセミナーでは発表しており、例えば昨年は山小屋トイレ整備補助が可能な点を紹介してもらった。今年はパネルトークのみで良いのか。  
事業の紹介として1コマ説明した方がよい。(検討員)  
環境省の最近の動向として、10~15分の発表を検討する。(環境省)
- 富士山の来訪者が世界遺産認定後に漸減している。(検討員)  
最近の動向をパネルトークの中で紹介いただきたい。また、外国人のトイレの使い方なども合わせて紹介するなど、聴講者が面白いと関心の持てる内容にした方がよい。(検討員)

○議事3 <実証試験結果の有効活用および実証効果に関する検討>

[事務局からの提案について]

- 本内容については事務局からの提言であり、検討会で決議する内容ではない旨の説明を事務局から行った。
- 実証試験実施有無の確認について  
実証事業を世間に認知させるためには、広報PRをする事が重要である。
- 技術課題の改善状況の把握について  
追跡調査等、実証試験実施後に装置がどのように改善されているかを連絡するのが良い。  
実証試験要領11版に、3年が経過した技術について報告することが望ましい旨の記述を平成25年度改訂時に追加した。(実証機関)  
経年実証を行い、今後の技術改善に繋げていくのはどうか。
- 実証試験結果の広報・PRの徹底について  
セミナーやアンケートの実施などを徹底して行うことが重要である。  
イベント等を実施する際に、ETVの宣伝を行っているのかその内容をまとめるべきである。
- 申請者の立場ではメリットがないと受ける理由がないため、メリットをどのようにすれば受けられるか検討する必要がある。  
申請者の大半を占めるのが小規模の企業であるため、現在の分析項目が実態に即した形かどうかをコスト面について検討する必要がある。(検討員)  
申請者は実証試験期間中、不明な点等検討員に対して相談できるため、試験を受ける以外の相談できるメリットをより理解してもらえようような体制づくりが重要である。(検討員)

セミナー、企業の広報PR面などを付加してもらえると嬉しい。(実証機関)

現在はISO-ETV設定に向けた国際化の動きがあり、認知度の確認でアンケートなどの企画も考えた方がよい。(検討員)

#### ○今後の日程について

- セミナーの日程を2月15、16、18、19日の中で決定することとなった。
- 次回の第4回検討会については年明け1月を予定しているため、12月までにセミナーの候補日確認と合わせて各検討員にメールで確認することとなった。

以上